



秋田をこくる建設人

Vol.11

大工

高橋 さやかさん(30代)

佐藤工建[羽後町]

キャリア 17年



だんだん出来上がっていくモノ  
お客様や現場の仲間との  
コミュニケーション  
その両方が面白い



大工一筋・18年目のキャリアを迎える高橋さやかさん。明るく、気さくな人柄で、いつも現場の笑い声の中心にいる。その人柄とコミュニケーション力は、建設業の仕事に活かされているだけでなく、「モノ」づくりの枠を超え、数々の「コト」づくりにも繋がっていると、インタビューを通して感じた。

### 仕事の「やりがい」は？

私は建築大工なので一般住宅や学校などの建設に携わることが多いですが、どんな現場でも施主さんとの「コミュニケーション」を大切にしています。例えば高齢の方が住む家を建てる時は、ご本人と対面して手すりの高さなどに配慮します。また、国の教育指導（A4教材の導入）を機にサイズアップされるようになったランドセルに合わせて、\***小学校の収納をリフォーム**したときも、事前に子どもたちの声を聞きました。丁寧に要望を聞いてつくったモノに対して施主さんが「ありがとう」と言ってくれたとき、この仕事の面白さとやりがいを実感しますね。

### 建設業界に入ったきっかけは？

もともと父が大工の棟梁をしていました。私は小さい頃から職人さんたちが作業している姿を見てきたので、建設業の仕事を身近に感じながら育ったのです。大工さんたちの、あるときは真剣な表情で、またあるときはワイワイ楽しく現場で働く姿に憧れて、高校卒業後に入職しました。当時、私と同じ女性従事者はかなり少なかったと思いますが、男性の先輩方が親切に私の質問に答えてくれたり、「俺の技術をさやかに全部、授けてやる」と言ってくれたりしたので、不安は一切ありませんでした。むしろ大切に育ててくれて、感謝しかありません。

### これから挑戦したいことは？

一般住宅の墨付け（大工が図面を見ながら土台や柱、梁となる木材に、加工のための目印を付ける作業）が、今の課題です。墨付けは、平面図から構造物のイメージを立体的に描くのが、とても難しい作業。図面に描かれていない「あそび」部分までしっかり読み取れるようになるには、現場経験をもっと積んで「勘」を鍛える必要があると思っています。墨付け技術を磨き、職人レベルの大工になりたい。また、キャリア18年目を迎えたので、後輩の育成にも挑戦しています。先輩方が私にしてくれたように、今度は私が後輩を大切に育てていこうと思います。

キャリアアップ

CAREER UP

2005年  
入社

2011年(7年目)  
2級建築施工管理技士  
取得

2016年(12年目)  
1級建築大工技能士  
取得

はじめての資格試験は  
ちょっぴり手強くない？  
2度目の挑戦で見事合格。

資格試験勉強中、地元・羽後町の大工  
技能組合の皆さんが作業場を貸し出し  
たり、技能練習に必要な材料を集めたり  
して高橋さんを応援。皆さんのあたた  
かさは何よりの励みになった。

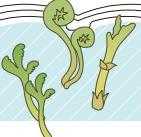
### コロナに残っているプロジェクト

\*地元小学校での  
収納リフォーム  
(2015年/羽後町)

A4教材の導入により、2011年  
から小学生のランドセルもサ  
イズアップ。高橋さんは地元  
小学校で子どもたちの声を  
聞き、収納を容量の大きいも  
のにリフォームした。



高橋 さやかさんの  
もうひとつの  
物語



### 休日の楽しみは、家族・愛犬と一緒に過ごす「トキ」

高橋さんの職場はワークライフバランス推進に積極的で、休みも取得しやすいそう。小学生の息子さんを持つ高橋さん。休日はその息子さんと一緒に過ごすことがほとんどだと言う。愛犬の散歩や買い物は当たり前で、ときには山菜採りにまで親子で出掛けるほど仲が良い。気力と体力の要る、大工職人の仕事。高橋さんを支えているのは、この休日の、家族・愛犬と一緒に笑って過ごす「トキ」なのだろう。

